

令和5年3月17日  
総務文教委員会資料  
企画管理部

目 次

【報告事項】

- 1 富山市の市町村合併検証について ..... 1 頁

# 富山市の市町村合併検証について

TOYAMA CITY

## 市町村合併の背景

- (1) 日常生活圏の拡大と広域行政への対応
- (2) 地方分権への対応
- (3) 本格的な少子・高齢社会への対応
- (4) 国・地方を通じた厳しい財政状況

<合併までの主な経緯>

年 月 日	取 り 組 み
平成13年 7月 5日	富山地区広域圏11市町村による「富山地域合併に関する研究会」を設置
平成14年12月 2日	富山市長が富山地区広域圏構成市町村による合併準備会への参加を要請
平成15年 1月 8日	富山市と上婦負6町村による富山地域合併協議会設立準備会を発足
平成15年 4月 1日	「富山地域合併協議会」(法定協議会)発足(平成17年3月までに計19回開催)
平成16年10月 9日	合併協定調印式
平成16年10月13日 ～19日	婦中地域を除く6市町村の臨時議会において、廃置分合などの合併関連議案の議決
平成16年11月15日	婦中町において合併関連議案を町長により専決処分
平成16年11月16日	合併申請書を県知事へ提出
平成17年 3月31日	7市町村において閉庁式を実施

## 富山市市町村合併検証委員会委員名簿

区分	氏名	役職
委員長	辻 琢也	一橋大学大学院法学研究科 教授
副委員長	中村 和之	富山大学 副学長
委員	石動 瑞代	富山短期大学 幼児教育学科 教授
委員	尾畑 納子	富山国際大学 名誉教授
委員	久保田 善明	富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科 教授
委員	高木 繁雄	富山商工会議所 会頭
委員	高城 繁	富山市社会福祉協議会 会長
委員	高橋 明	日本政策投資銀行地域調査部 部長
委員	宮口 侗迪	早稲田大学 名誉教授
委員	北岡 勝	富山市自治振興連絡協議会 会長
委員	長澤 邦男	大沢野地域自治振興連絡協議会 会長
委員	山森 潔	大山地域自治振興会連合会 会長
委員	中井 義則	八尾地域自治振興連合会 会長
委員	茗原 勉	婦中地域自治振興連絡協議会 会長
委員	山田 憲彰	山田地域自治振興会 会長
委員	江尻 裕亮	細入自治会連合会 会長
オブザーバー	滑川 哲宏	富山県地方創生局市町村支援課 課長

※役職は令和4年5月27日現在

## 検証の目的と方法

富山市市町村合併検証委員会により、市町村合併後のまちづくりや行財政運営を長期的な観点から分析し、今後のまちづくりや市政のあり方を展望。

### <富山市市町村合併検証委員会>

辻琢也一橋大学大学院法学研究科教授を委員長に、学識、各種団体、自治振興会から計16名で構成。

#### 【開催状況】

- 5月27日 第1回検証委員会（諮問）
- 8月23日 第2回検証委員会
- 10月20日 第3回検証委員会
- 12月26日 第4回検証委員会
- 1月20日 答申

# 富山市市町村合併検証委員会 による検証結果 (合併検証報告書)

TOYAMA CITY

## 1 新市建設計画等の進捗状況

新市建設計画の進捗状況（令和3年度末現在）

提案市町村	富山	大沢野	大山	八尾	婦中	山田	細入	計	
事業数	171	43	53	84	118	59	39	567	
実施状況	完了	148	30	41	63	91	39	20	432 (92.3%)
	継続	11	1	0	1	2	-	1	16 (3.4%)
	中断	3	-	1	-	-	-	-	4 (0.9%)
	未実施	2	4	1	0	4	1	4	16 (3.4%)
中止	7	8	10	20	21	19	14	99	

※（ ）は「中止」を除いた実施状況に占める割合

## 2 ライフラインの整備状況

### ①市道の整備状況

		平成17年4月1日	平成27年4月1日	令和3年4月1日	H17→R3 増分
富山地域	①実延長(m)	1,874,961.0	1,943,780.0	1,952,737.0	77,776.0
	②改良済延長(m)	1,492,992.2	1,586,843.0	1,605,555.0	112,562.8
	③改良率 ②/①	79.63%	81.64%	82.22%	2.59%
	④舗装済延長(m)	1,748,488.2	1,826,219.0	1,847,779.0	99,290.8
	⑤舗装率 ④/①	93.25%	93.95%	94.63%	1.37%
大沢野地域	①実延長(m)	195,796.0	189,976.0	191,637.0	-4,159.0
	②改良済延長(m)	134,846.0	142,637.0	145,775.0	10,929.0
	③改良率 ②/①	68.87%	75.08%	76.07%	7.20%
	④舗装済延長(m)	177,990.0	178,624.0	180,903.0	2,913.0
	⑤舗装率 ④/①	90.91%	94.02%	94.40%	3.49%
大山地域	①実延長(m)	101,326.0	105,832.0	106,752.0	5,426.0
	②改良済延長(m)	73,108.5	79,629.0	81,724.0	8,615.5
	③改良率 ②/①	72.15%	75.24%	76.56%	4.40%
	④舗装済延長(m)	90,633.1	97,246.0	99,314.0	8,680.9
	⑤舗装率 ④/①	89.45%	91.89%	93.03%	3.59%
八尾地域	①実延長(m)	350,510.0	351,183.0	350,773.0	263.0
	②改良済延長(m)	175,679.0	180,995.0	189,033.0	13,354.0
	③改良率 ②/①	50.12%	51.54%	53.89%	3.77%
	④舗装済延長(m)	264,091.0	263,852.0	266,133.0	2,042.0
	⑤舗装率 ④/①	75.34%	75.13%	75.87%	0.53%

		平成17年4月1日	平成27年4月1日	令和3年4月1日	H17→R3 増分
婦中地域	①実延長(m)	315,414.0	354,686.0	356,068.0	40,654.0
	②改良済延長(m)	224,196.0	261,561.0	265,585.0	41,389.0
	③改良率 ②/①	71.08%	73.74%	74.59%	3.51%
	④舗装済延長(m)	271,098.0	311,161.0	313,959.0	42,861.0
	⑤舗装率 ④/①	85.95%	87.73%	88.17%	2.22%
山田地域	①実延長(m)	102,511.0	104,229.0	103,839.0	1,328.0
	②改良済延長(m)	69,504.0	71,851.0	72,015.0	2,511.0
	③改良率 ②/①	67.80%	68.94%	69.35%	1.55%
	④舗装済延長(m)	64,747.0	64,714.0	64,928.0	181.0
	⑤舗装率 ④/①	63.16%	62.09%	62.53%	-0.63%
細入地域	①実延長(m)	33,770.5	33,309.0	33,930.0	159.5
	②改良済延長(m)	24,817.0	24,441.0	27,314.0	2,497.0
	③改良率 ②/①	73.49%	73.38%	80.50%	7.01%
	④舗装済延長(m)	30,253.8	29,954.0	32,781.0	2,527.2
	⑤舗装率 ④/①	89.59%	89.93%	96.61%	7.03%
富山市全域	①実延長(m)	2,974,288.5	3,082,995.0	3,095,736.0	121,447.5
	②改良済延長(m)	2,195,142.7	2,347,957.0	2,387,001.0	191,858.3
	③改良率 ②/①	73.80%	76.16%	77.11%	3.30%
	④舗装済延長(m)	2,647,301.1	2,771,770.0	2,805,797.0	158,495.9
	⑤舗装率 ④/①	89.01%	89.91%	90.63%	1.63%

③上下水道の整備状況

行政区域	年度	水道普及率の推移		
		給水人口	区域内人口	普及率
		①	②	①÷②
		単位:人		単位:%
富山地域	平成17年度	320,814	324,635	98.82
	令和2年度	317,591	318,884	99.59
大沢野地域	平成17年度	22,540	23,001	98.00
	令和2年度	21,356	21,556	99.07
大山地域	平成17年度	11,495	11,515	99.83
	令和2年度	9,200	9,319	98.72
八尾地域	平成17年度	21,183	22,230	95.29
	令和2年度	18,696	19,098	97.90
婦中地域	平成17年度	35,266	36,869	95.65
	令和2年度	38,840	41,324	93.99
山田地域	平成17年度	1,839	1,864	98.66
	令和2年度	1,348	1,357	99.34
細入地域	平成17年度	1,743	1,746	99.83
	令和2年度	1,173	1,226	95.68
富山市全域	平成17年度	414,880	421,860	98.35
	令和2年度	408,341	412,764	98.93

※給水人口については、開栓世帯等からの推計値

行政区域	年度	汚水処理人口普及率の推移							区域内人口 ⑥	公共下水道 普及率 ①÷⑥	汚水処理人 口普及率 ⑤÷⑥
		公共下水道	農業集落排水 等	コミュニティー プラント	個別合併処理 浄化槽	計	⑤=①+②+③+④				
		①	②	③	④	⑤	⑤				
		単位:人						単位:%			
富山地域	平成17年度	284,249	11,430	3,266	6,419	305,364	321,021	88.55	95.12		
	令和2年度	303,506	10,456	725	2,880	317,567	318,884	95.18	99.59		
大沢野地域	平成17年度	17,090	1,411	0	3,224	21,725	22,912	74.59	94.82		
	令和2年度	17,311	971	0	2,303	20,585	21,562	80.28	95.47		
大山地域	平成17年度	7,924	3,286	0	79	11,289	11,539	68.67	97.83		
	令和2年度	6,471	2,385	0	102	8,958	9,331	69.35	96.00		
八尾地域	平成17年度	11,749	2,502	0	2,509	16,760	22,275	52.75	75.24		
	令和2年度	16,578	1,857	0	485	18,920	19,214	86.28	98.47		
婦中地域	平成17年度	15,954	1,712	0	7,171	24,837	36,653	43.53	67.76		
	令和2年度	39,029	1,281	0	795	41,105	41,327	94.44	99.46		
山田地域	平成17年度	1,249	544	0	76	1,869	1,869	66.83	100.00		
	令和2年度	899	399	0	59	1,357	1,357	66.25	100.00		
細入地域	平成17年度	1,258	282	0	83	1,623	1,743	72.17	93.12		
	令和2年度	999	224	0	3	1,226	1,226	81.48	100.00		
富山市全域	平成17年度	339,473	21,167	3,266	19,561	383,467	418,012	81.21	91.74		
	令和2年度	384,793	17,573	725	6,627	409,718	412,901	93.19	99.23		

④料金・使用料

水道・簡易水道料金

水道・簡易水道料金（大沢野町の簡易水道、山田村の小規模水道を除く。）は、  
**合併時に富山市の料金体系に統一**し、市町村合併後も存続していた大沢野地域及び山田地域の  
 一部地域の簡易水道料金は、平成23年度水道料金に統一。

項目	地域名	合併前 (平成16年度)	改定			
			平成17年度	平成20年度	平成26年度	令和元年度
一般家庭用 口径20mm 1月20㎡ 使用の場合 (税込み)	富山	1,953円	1,953円	2,205円	2,268円  (消費税率変 更に伴う改定)	2,310円  (消費税率変 更に伴う改定) ※10月1日から
	大沢野	2,296円				
	大山	2,677円				
	八尾	3,150円				
	婦中	3,265円				
	山田	5,415円				
	細入	5,523円				

下水道使用料

下水道使用料は、合併時にはそれぞれの使用料体系を引き継ぎ、  
 その後**平成20年度に統一**し、あわせて料金改定を行った。

項目	地域名	合併前 (平成16年度)	改定		
			平成20年度	平成26年度	令和元年度
一般家庭用 1月20㎡ 使用の場合 (税込み)	富山	2,919円	2,940円	3,024円  (消費税率変更に 伴う改定)	3,080円  (消費税率変更に 伴う改定) ※10月1日から
	大沢野	3,393円			
	大山	3,097円			
	八尾	3,150円			
	婦中	3,360円			
	山田	3,360円※			
	細入	3,797円			

※ 人員割のため1世帯3人として計算

### ⑤公共建築物の状況（令和3年3月末）

富山市が保有する「公共建築物」の延床面積は約173.2万㎡、

市民1人当たりでは約4.2㎡（令和3年3月末時点）で、**中核市の中でも上位**に位置。

施設分類	施設数	延床面積 (㎡)
市民文化系施設（公民館、ホール 等）	102	110,158
社会教育系施設（図書館、博物館、社会教育センター 等）	56	45,569
スポーツ・レクリエーション系施設 （体育館、プール、野球場、運動広場、観光施設、宿泊・入浴施設 等）	88	155,172
産業系施設（産業振興施設）	16	56,609
学校教育施設（小学校、中学校、給食センター 等）	97	641,896
子育て支援施設（保育所、幼稚園、児童館 等）	71	45,198
保健・福祉施設（老人福祉センター、障害福祉施設、児童福祉施設、保健所等保健施設 等）	19	42,628
医療施設	5	51,027
行政系施設（本庁舎、支所、消防署 等）	260	125,994
市営住宅	38	303,426
その他	330	154,327
合計	1,082	1,732,001

※民間等が保有する建物を市が借り上げて利用している施設は含まない。  
※「富山市公共施設等総合管理計画」（令和3年12月改訂版）より作成。

## 3 市町村合併と社会保障サービス

### ①医療体制

施設数	病院	診療所	歯科
全国	8,238 (6.5)	102,612 (81.3)	67,874 (53.8)
富山県	106 (10.2)	759 (73.3)	442 (42.7)
富山市	46 (11.1)	340 (82.1)	187 (45.2)

病床数	病院						診療所
	総数	一般	療養	精神	感染症	結核	
全国	1,507,526 (1,195.1)	887,920 (703.9)	289,114 (229.2)	324,481 (257.2)	1,904 (1.5)	4,107 (3.3)	86,046 (68.2)
富山県	15,170 (1,466.0)	8,222 (794.5)	3,774 (364.7)	3,094 (299.0)	23 (2.2)	57 (5.5)	436 (42.1)
富山市	6,875 (1,660.9)	3,628 (876.5)	1,914 (462.4)	1,303 (314.8)	9 (2.2)	21 (5.1)	193 (46.6)

資料：厚生労働省『医療施設調査』より 令和2年10月1日現在 カッコ内数：人口10万人あたりの数

※施設数については、休止、1年以上休診中の施設を除く

病床数を**人口10万人当たり**で見ても、病院に関しては、一般、療養、精神、感染症、結核のすべての病床において**全国平均を上回っている**。持続可能で比較的充実した医療体制が確保されつつあるといえる。



## ②高齢者福祉

### 人口及び高齢化率の推移

	平成17年度	平成22年度	平成24年度	平成27年度	令和2年度
総人口 ①	417,247	417,046	420,496	418,179	412,901
65歳以上人口 ②	90,557	101,504	108,609	118,083	123,249
高齢化率 ③=②/①×100	21.70%	24.34%	25.83%	28.24%	29.85%
第1号被保険者数 ④	90,618	101,031	108,328	117,794	123,203
うち要介護認定者数 ⑤	15,063	17,096	19,898	21,774	23,923
認定率 ⑤/④×100	16.62%	16.92%	18.37%	18.48%	19.42%
要介護認定者数(全国)	4,175,295	4,907,439	5,457,084	6,068,408	6,688,653

資料：富山市の社会福祉 数値は各年度3月31日現在  
要介護認定者数(全国)は、介護保険事業状況報告(年報)

65歳以上人口は市町村合併以後、一貫して増加。  
令和2年度末時点では、約12万3千人、高齢化率は約30%。

### 指定居宅サービス事業所数(一部抜粋)

区分	平成17年度末	令和2年度末
訪問介護	70	133
通所介護※	104	107
短期入所生活介護	31	50

※ 定員18名以下の通所介護事業所については、平成28年4月以降「地域密着型通所介護」へ移行(令和2年度末97事業所)

### 指定施設サービス事業所数(一部抜粋)

区分	平成17年度末	令和2年度末
介護老人福祉施設	21 1,655床	26 1,746床
介護老人保健施設	17 1,661床	17 1,683床
介護療養型医療施設※	33 1,414床	3 116床
介護医療院※2		9 726床

※ 令和6(2024)年3月末廃止予定であり、介護医療院や医療療養病床等への転換が進められている。

※2 平成30年4月の介護保険法等の法改正施行により、新たに法定化

資料：富山市の社会福祉

- 第1号被保険者数や要介護認定者数が増加し、指定介護サービス事業所も合併時に比べ増加。
- 介護保険法の改正により、平成18年に32か所の「地域包括支援センター」を設置。  
※ 中核市として最多  
※ 富山市民の約88%が地域包括支援センターから半径2キロメートル圏内に居住
- 介護予防の拠点として、「角川介護予防センター」を平成23年に開設。

### ③生活保護

最低生活費の算出に当たっては、級地制度による基準額の地域差を設けており、市町村合併により**旧富山市の級地区分に統一**。

モデルケース①（単身世帯、60歳）

年度	平成16年	→	平成17年
級地区分	3級地-1		2級地-1
最低生活費（月額）	65,210円		72,370円（+7,160円）

※住宅扶助、各種加算は除く

モデルケース②（3人世帯、40歳・14歳・10歳）

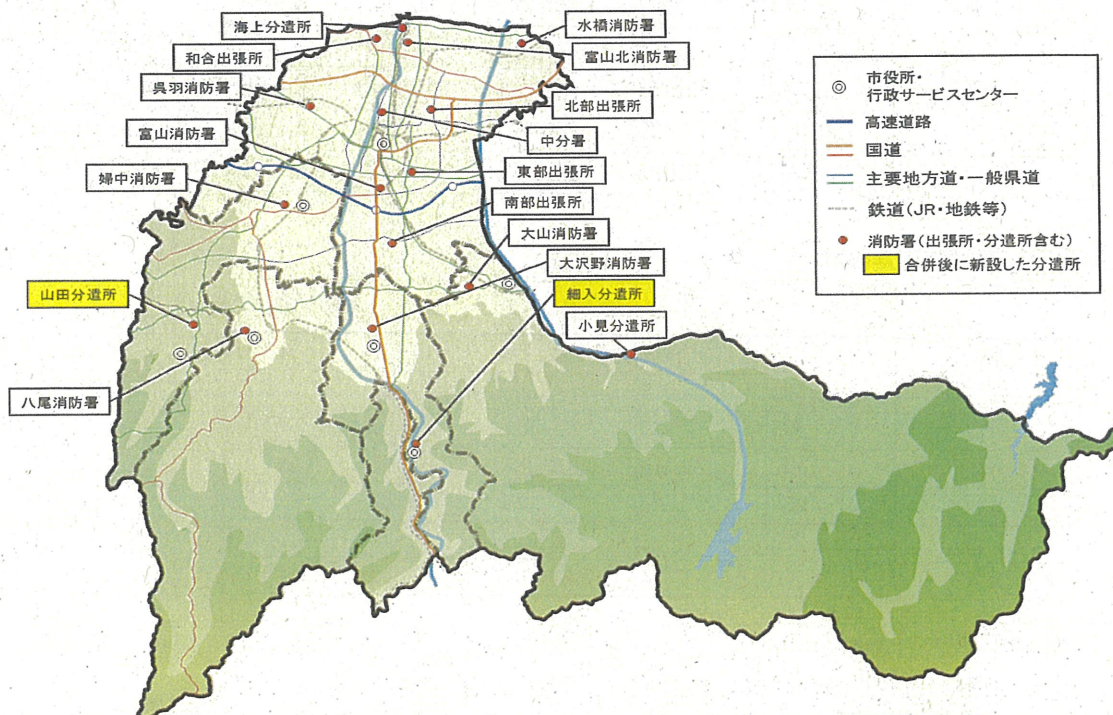
年度	平成16年	→	平成17年
級地区分	3級地-1		2級地-1
最低生活費（月額）	142,460円		154,430円（+11,970円）

※

住宅扶助、教育扶助、各種加算は除く

### ④消防の整備

市町村合併後、新たな消防施設として平成18年に**細入分遣所**、平成19年に**山田分遣所**が整備。さらに、平成20年に**小見分遣所の移転**に合わせ、**救急車が配備**。



## 4 人口動態の変化

### 国勢調査

		H17	H22	増減率(H17-22)	H27	増減率(H22-27)	R2	増減率(H17-R2)
富山市		421,239	421,953	0.2%	418,686	▲0.8%	413,938	▲1.7%
	年少人口	57,572	55,872	▲3.0%	52,626	▲5.8%	48,134	▲16.4%
	生産年齢人口	272,601	260,790	▲4.3%	245,586	▲5.8%	235,817	▲13.5%
	老年人口	90,503	102,601	13.4%	117,978	15.0%	122,767	35.6%

※年齢不詳は計にのみ含む。

### 人口推計（新市建設計画）

		H17	H22	増減率(H17-22)	H27	増減率(H22-27)
富山市		421,292	418,189	▲0.7%	410,978	▲1.7%
	年少人口	-	56,000	-	51,000	▲8.9%
	生産年齢人口	-	263,000	-	246,000	▲6.5%
	老年人口	-	100,000	-	114,000	14.0%

合併の検証に際しては、人口動態の変化が最大の話題の一つであるが、富山市の合併においては、**ほぼ推計どおり**であった。

### 国勢調査

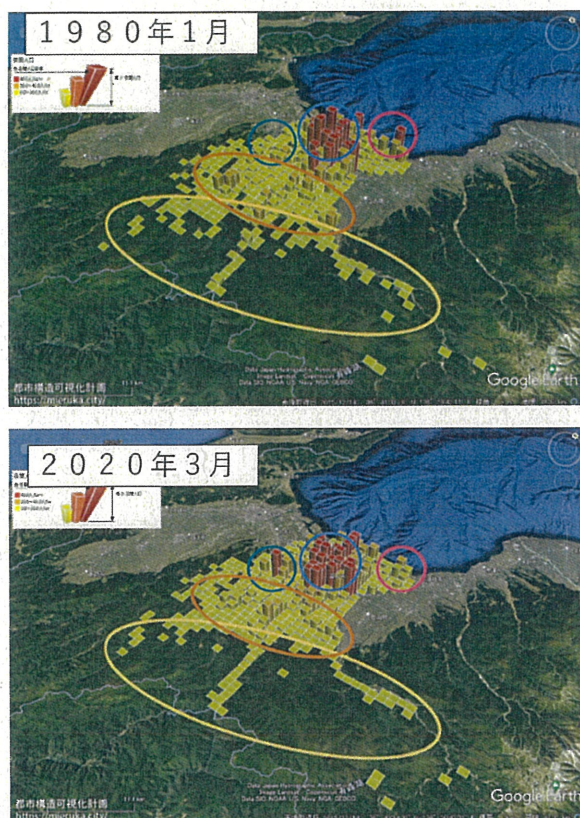
	H17	H22	増減率(H17-22)	H27	増減率(H22-27)	R2	増減率(H17-R2)
富山	325,347	324,372	▲0.3%	323,248	▲0.3%	321,666	▲1.1%
大沢野	22,631	22,244	▲1.7%	21,582	▲3.0%	21,000	▲7.2%
大山	11,355	11,034	▲2.8%	10,300	▲6.7%	9,321	▲17.9%
八尾	21,811	21,018	▲3.6%	19,824	▲5.7%	18,673	▲14.4%
婦中	36,448	39,973	9.7%	40,778	2.0%	40,803	11.9%
山田	1,962	1,789	▲8.8%	1,612	▲9.9%	1,297	▲33.9%
細入	1,685	1,523	▲9.6%	1,342	▲11.9%	1,178	▲30.1%

### 人口推計（新市建設計画）

	H17	H22	増減率(H17-22)	H27	増減率(H22-27)
富山	323,594	318,512	▲1.6%	310,179	▲2.6%
大沢野	23,525	24,204	2.9%	24,612	1.7%
大山	12,305	12,910	4.9%	13,468	4.3%
八尾	22,122	21,776	▲1.6%	21,192	▲2.7%
婦中	36,203	37,629	3.9%	38,752	3.0%
山田	1,833	1,654	▲9.8%	1,475	▲10.8%
細入	1,710	1,504	▲12.0%	1,300	▲13.6%

- 婦中地域は、推計よりも人口増加。（R22、R27）
- 大沢野・大山・八尾の地域は、推計より人口減少。（R22、R27）

## 5 土地利用・人口動態の変化



- 旧富山市の中心部エリアは、合併前後においても、高い人口集積にあるものの、旧富山市内でも沿岸部など、かつて高密度であった地区で、人口密度を失っているエリアもみられる。
- 旧町村部の平野部エリアでは、地域拠点及び公共交通沿線部の一部で人口の集積がみられるが、それ以外の地域では人口減少。

(参考) 耕作放棄地面積の推移

(ha)

	2005年 (平成17年)	2010年 (平成22年)	2015年 (平成27年)
富山地域	210	201	290
大沢野地域	61	63	102
大山地域	66	65	80
八尾地域	119	144	154
婦中地域	55	40	63
山田地域	34	36	41
細入地域	19	32	23

※(出典) 農林業センサス

※地域別のため全体合計とは一致しない

耕作放棄農地に関しては、2005年から2010年の5年間よりも、2010年から2015年までの5年間により増加。とりわけ、旧富山地域において顕著であり、富山市農業が抱える課題は大きい。

## 6 財政推計と決算

(億円)

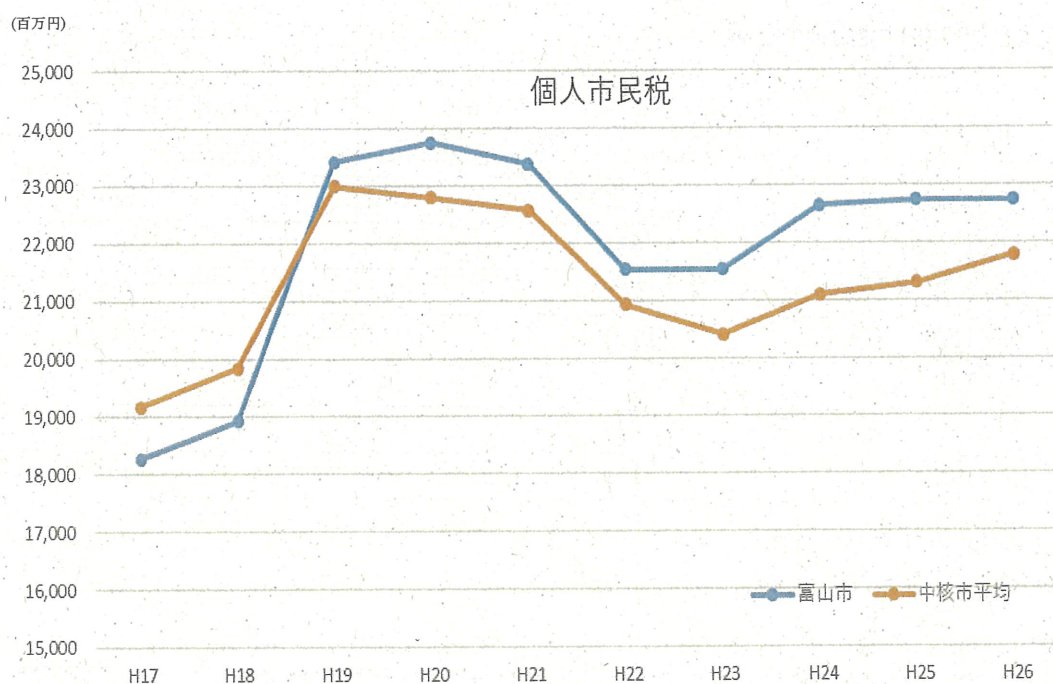
歳入	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
計画	1,650	1,601	1,593	1,587	1,590	1,586	1,597	1,597	1,594	1,593
決算	1,822	1,722	1,755	1,796	1,709	1,660	1,655	1,585	1,648	1,676

※計画は、新市建設計画策定時の財政計画

税制改正や好況を反映した地方税収の増加、社会保障関係経費にかかる補助金の増加等により、歳入総額は、**決算が計画を上回る傾向**

22

TOYAMA CITY

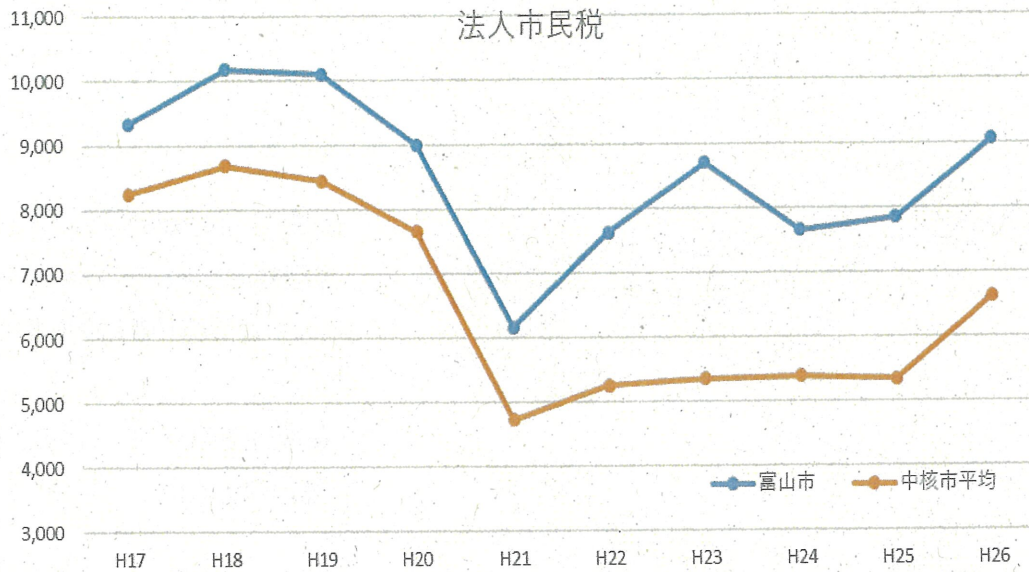


個人住民税については、所得税からの税源移譲に伴って、平成18年度から平成19年度にかけて大きく増加。世界的な金融危機に伴う景気後退のため、税収は落ち込んだが、その後は、景気の回復を受けて税収も回復。

23

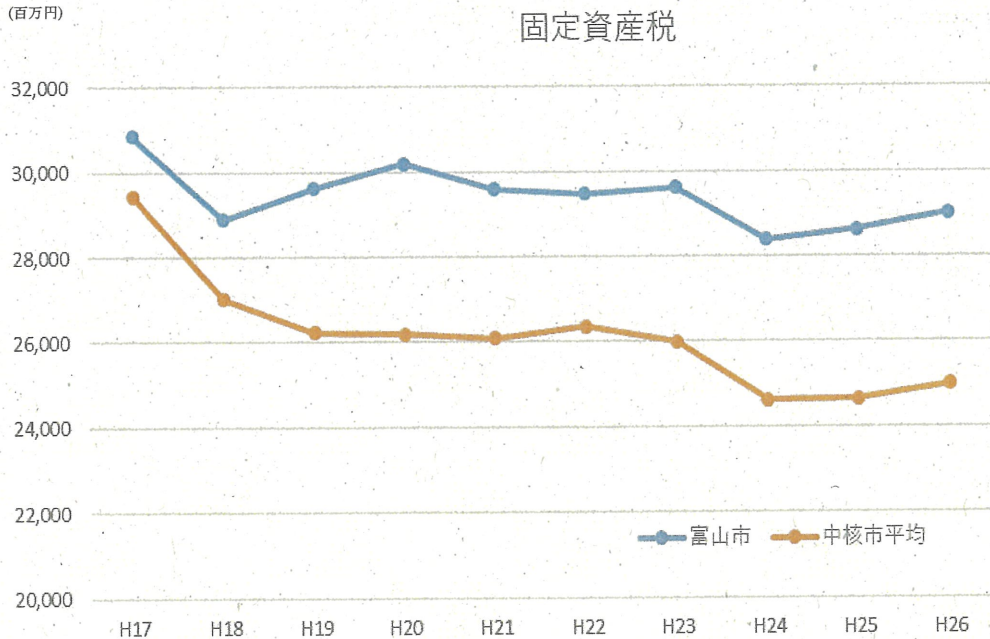
TOYAMA CITY

(百万円)



法人住民税に関しては、**中核市平均を常に上回る**決算で推移。景気後退による企業収益の減少などにより平成20年度から平成21年度にかけて税収は落ち込んだが、その後、回復。

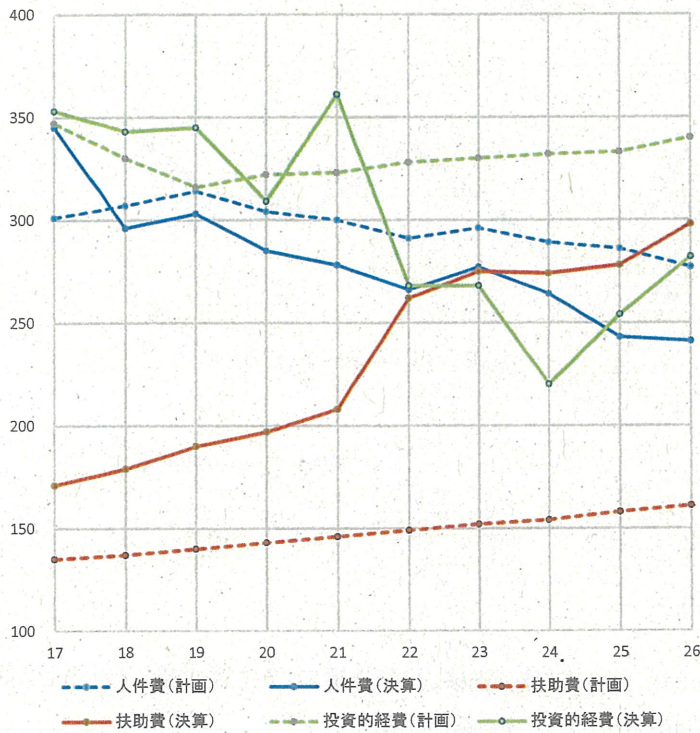
(百万円)



固定資産税についても、**中核市平均を上回る水準**で推移。合併後10年間は地価の下落が続いたが、平成24年度を最後に、その後は増収傾向。

工業都市である富山市は、**償却資産分が一定水準を確保し**、全体を底上げ。

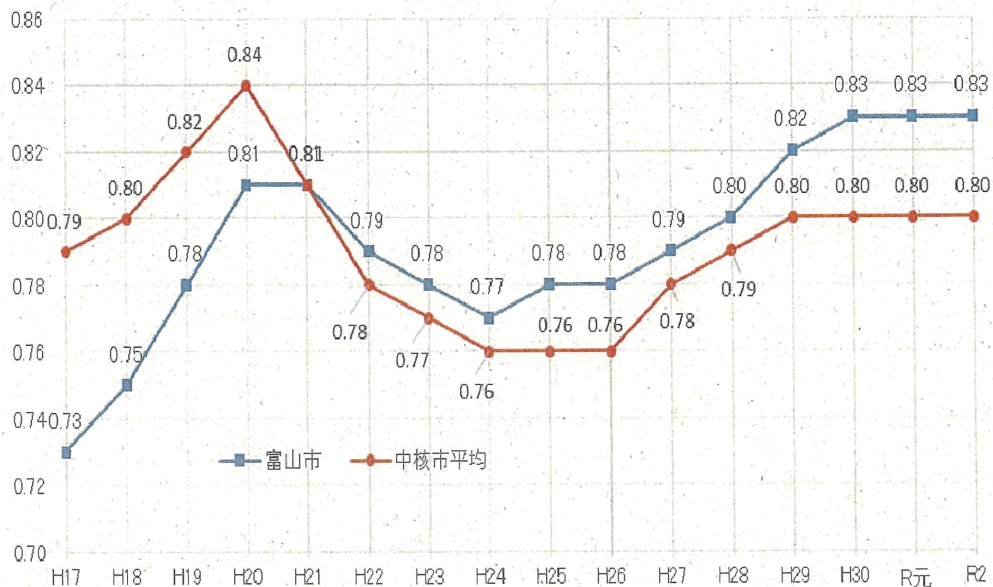
(億円) 財政計画と決算(普通会計)との比較(歳出)



人件費や投資的経費については抑制傾向だが、**扶助費は大幅な伸び**、公債費が継続的に増加

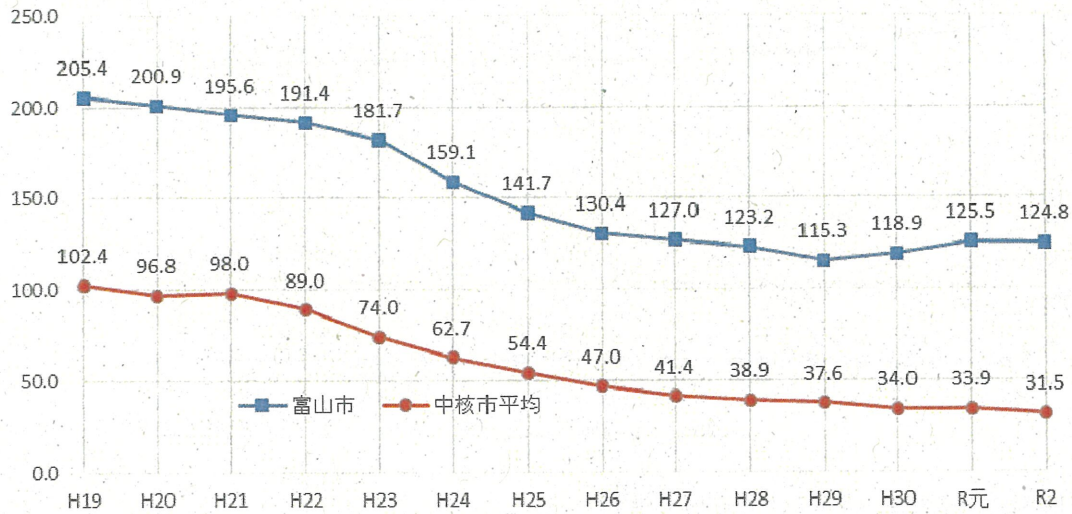
➡ 総額では、財政推計を上回る決算の傾向

【財政力指数】



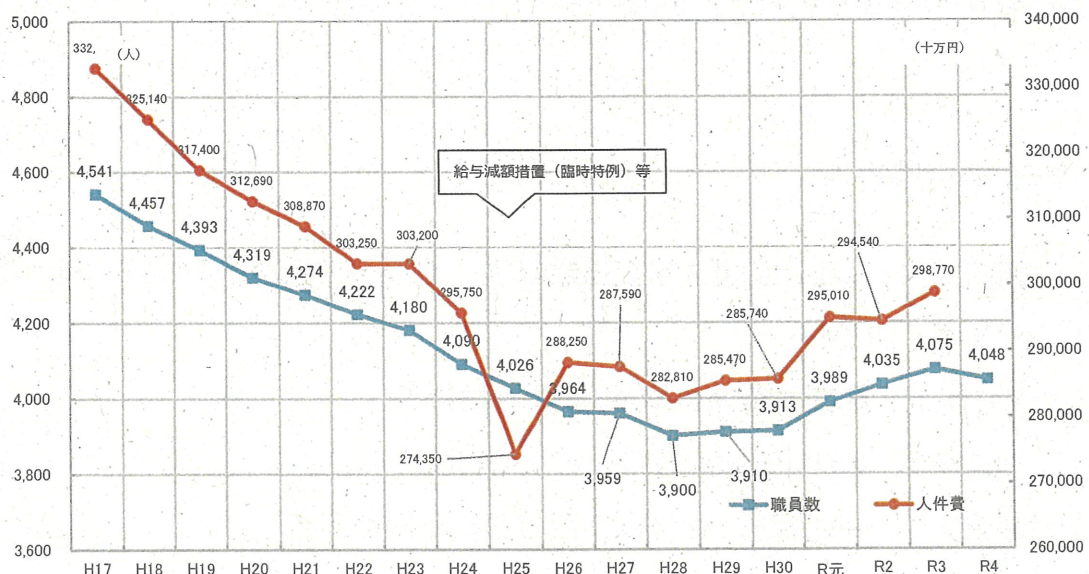
合併当初、中核市平均よりも低かったが、リーマンショック後、中核市平均を上回り、**安定的に推移**。

【将来負担比率】



中核市平均を常に上回っている。小・中学校の耐震化等、また、これら事業や市営住宅の建設事業などにおいて、積極的なPFIの導入等によるものと考えられるが、近年の日本の地方財政状況にあって、富山市は、健全な財政状況にあるといえる。

【職員数及び人件費の推移】

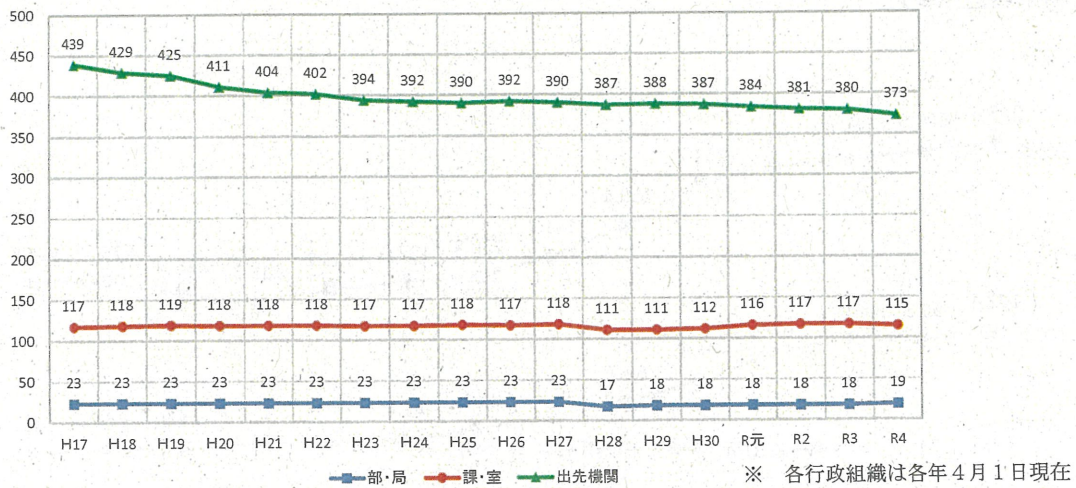


※全会計（特別職を除く）  
※退職手当を除く

市町村合併後、令和元年度までは職員数を削減し、人件費もそれに伴い減少。  
一方、常備消防拠点の整備などの消防体制の強化、市民病院における医療提供体制の拡充、保健福祉センターにおける母子保健体制の充実などのため、消防士、医師及び歯科医師、医療技術職、保健師・看護師・助産師などの専門職種については増員。



【行政組織数の推移】



【地区センターの配置】（平成17年4月1日現在）

合併時	富山	大沢野	大山	八尾	婦中	山田	細入
配置数	49箇所	4箇所	3箇所	8箇所	7箇所	0箇所	1箇所

市町村合併時には、本庁のほか、総合行政センターを旧6町村役場に設置。

また、地区センターを、旧富山地域以外の地域においても小学校区を基本単位として配置。

平成28年度に、総合行政センターを行政サービスセンターや専門分野の事務所等へと改組。

指定管理者制度の導入や保育所の民営化など行政改革の取り組みの結果、1割を超える出先機関を削減。

## 7 合併検証アンケート結果について

### <アンケート調査概要>

- (1) 調査対象 富山市に現住する35歳以上（H17.4.1当時満18歳以上）の男女
- (2) 配布数 6,000
- (3) 抽出方法 調査対象者の中から無作為抽出
- (4) 調査時期 令和4年9月14日～9月30日
- (5) 調査方法 郵送返送方式またはインターネット回答方式
- (6) 回答数 2,722（回収率：45.4%）

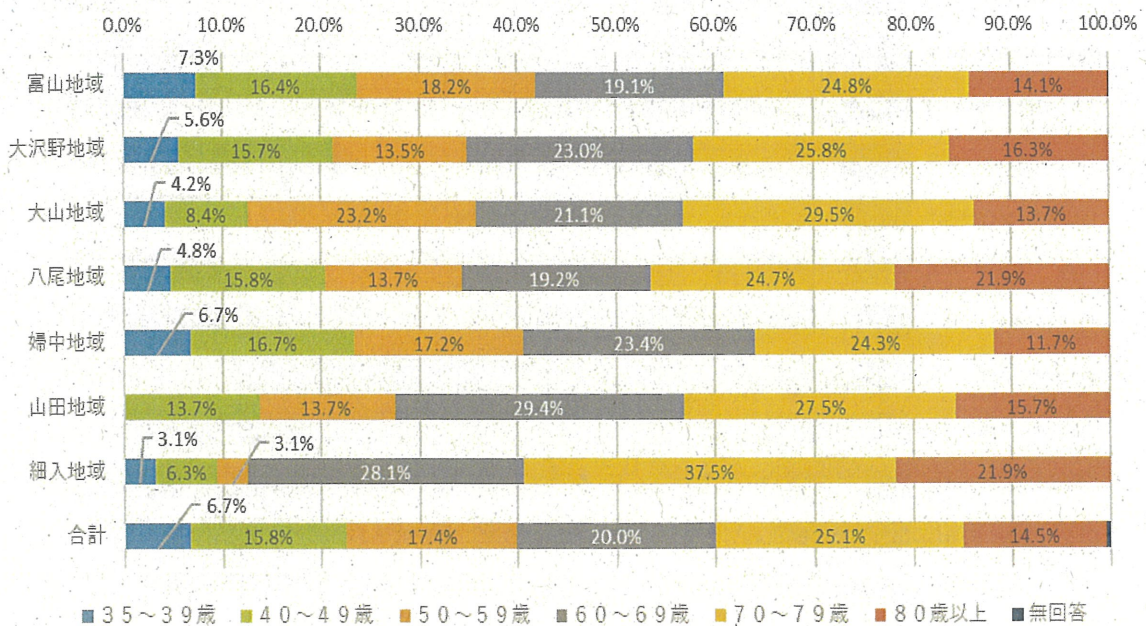
回答者性別、年齢別、地域別内訳

性別	回答数	総回答数に占める割合	年齢別	回答数	総回答数に占める割合
男	1,311	48.2%	35～39歳	182	6.7%
女	1,398	51.4%	40～49歳	431	15.8%
無回答	13	0.4%	50～59歳	473	17.4%
計	2,722	100.0%	60～69歳	545	20.0%
			70～79歳	684	25.1%
			80歳以上	396	14.6%
			無回答	11	0.4%
			計	2,722	100.0%

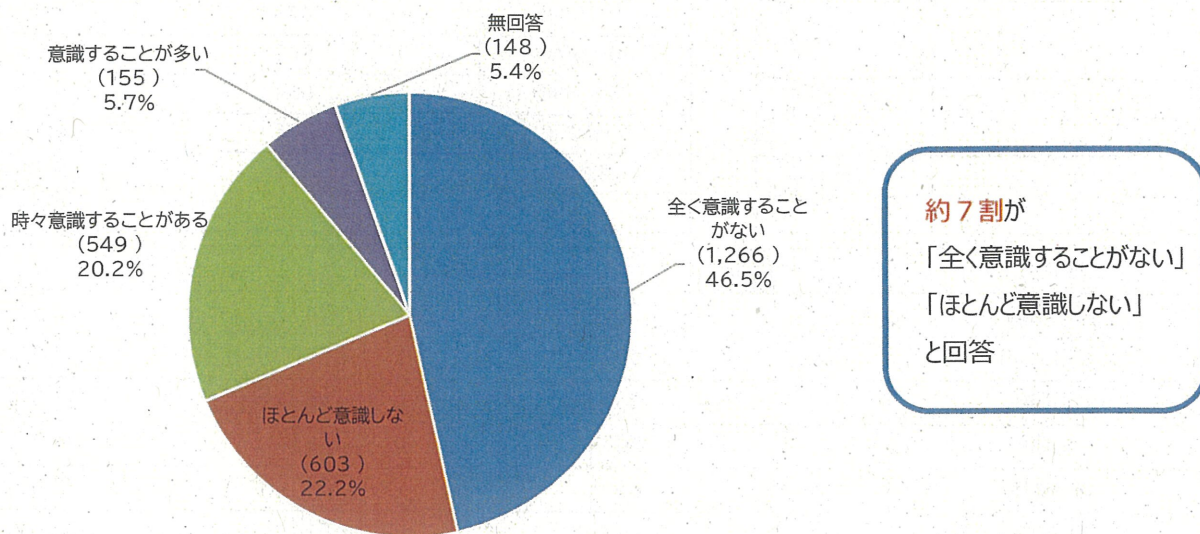
  

地域別	配布数	回答数	回答率
富山地域	4,300	1,968	45.8%
大沢野地域	400	178	44.5%
大山地域	200	95	47.5%
八尾地域	300	146	48.7%
婦中地域	600	239	39.8%
山田地域	100	51	51.0%
細入地域	100	32	32.0%
無回答	-	13	-
計	6,000	2,722	-

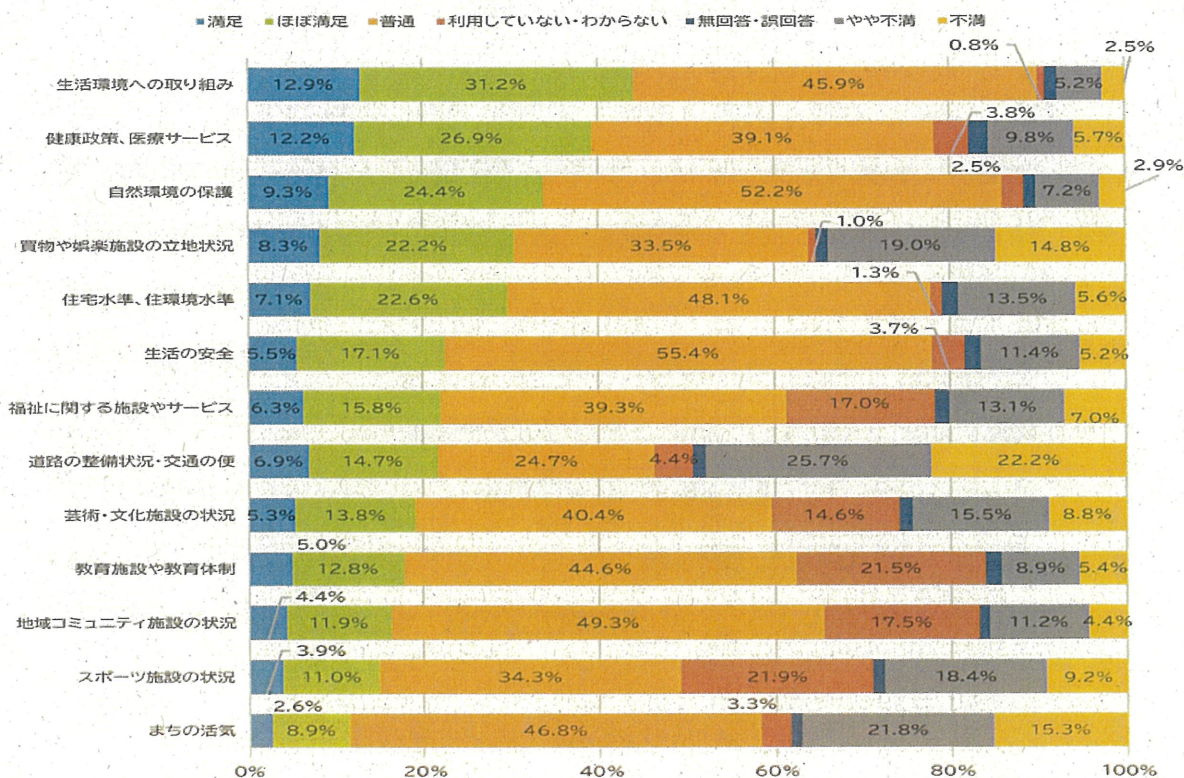
回答者地域別年齢構成



問 「市町村合併から17年余りが経過しましたが、普段の生活の中で「市町村合併したこと」を意識することはありますか。」

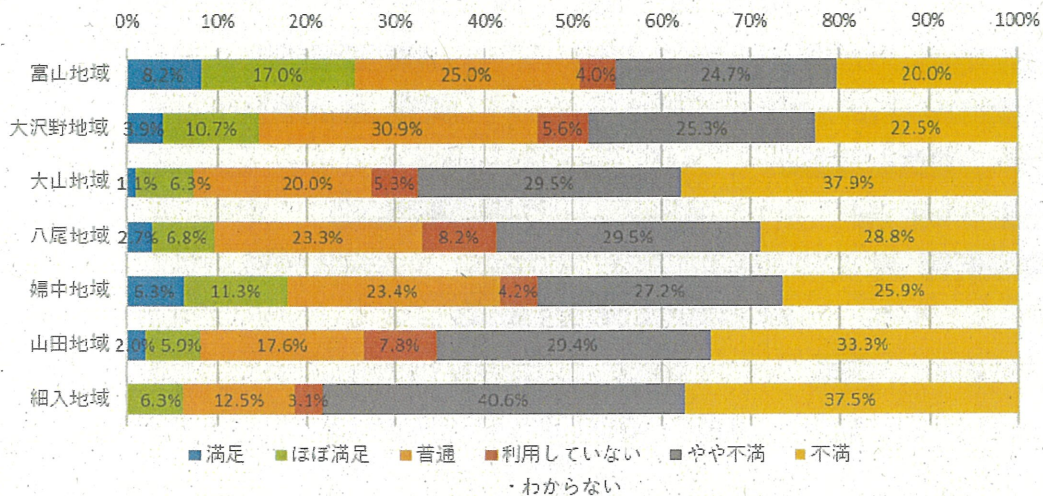


問 「あなたの住む地域の現状について、次の1から13までの項目について、該当する満足度の番号にそれぞれ1つずつ〇をつけてください。」



【不満の割合が高い3項目】

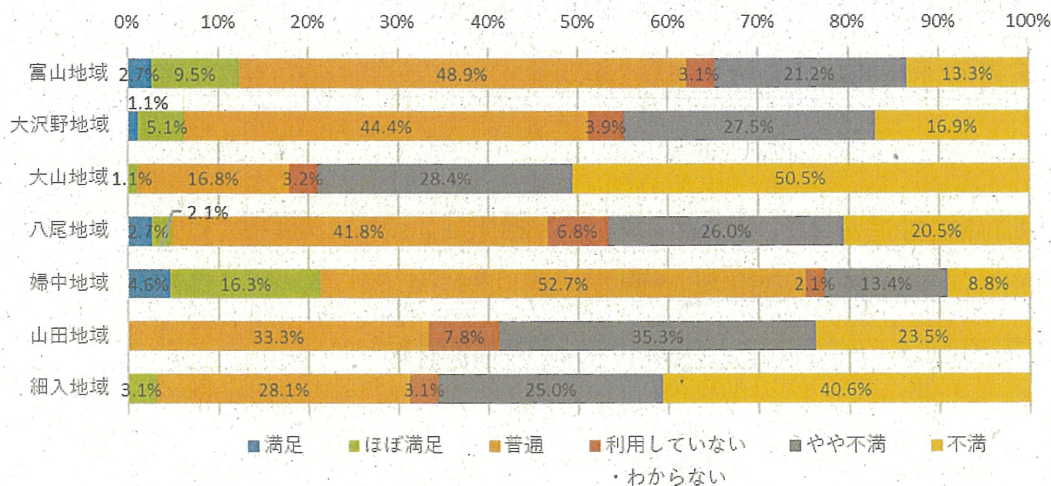
道路の整備状況・バス・鉄道などの交通の便（最も高い項目）



最も不満に思う割合が高かったのは、「道路の整備状況・バス・鉄道などの交通の便」(「不満」「やや不満」が47.9%)  
 いずれの地域も不満に思う割合が高い。

【不満の割合が高い3項目】

まちの活気（2番目に高い項目）

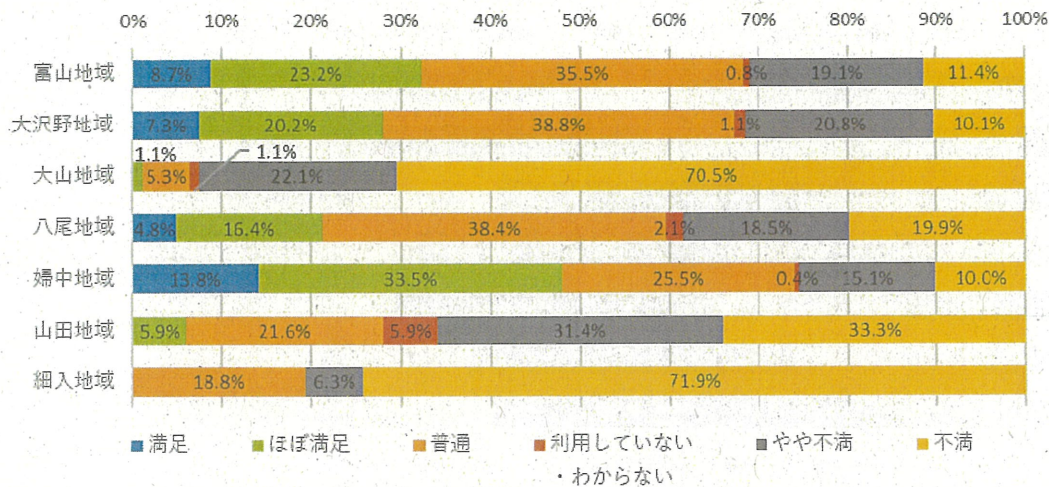


「まちの活気」は地域差が大きい。

- ・婦中地域は満足度が高く不満の割合が小さい。
- ・富山地域も他の地域と比較すると不満の割合は小さい。
- ・大山地域、山田地域、細入地域は不満の割合が他の地域と比較して高い。

## 【不満の割合が高い3項目】

買物や娯楽施設の立地状況（3番目に高い項目）



「買物や娯楽施設の立地状況」については**地域差**が大きい。

- ・婦中地域は不満の割合が一定程度あるが、満足度も高い。
- ・富山地域や大沢野地域も不満の割合が低い。
- ・大山地域、山田地域、細入地域は他の地域と比べ不満の割合が高い。

## 8 合併検証の総括（1）

誕生から17年を経過した新富山市のまちづくりや行財政運営を、合併効果の観点から検証。

- (1) 人口減少は進んだが、ほぼ新市建設計画策定時の人口推計どおり（若干抑制）
- (2) 「新市建設計画」に記載された事業の約9割を実現
- (3) 中核市としての経済力と堅実な行財政状況を維持



富山市の合併は、中長期的な観点からも、**期待した一定の成果**をあげてきた

## 8 合併検証の総括（2）

### <社会保障>

新市一体となり**健康福祉の基盤整備**が進められたことの意義は大きい。

**新たな消防・救急施設**が整備。

生活保護の支給に際し、最低生活費の算出は旧富山市の級地区分に統一。

### <ライフライン整備>

進んでいなかった地域において**下水道が顕著に普及**。

上水道に関しても新市全体で経営統合し、料金体系が統一。

**地域を結ぶ市道**の整備が進捗。

## 8 合併検証の総括（3）

### <まちづくり>

全国に先駆けて「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」を進め、居住推進地区には人口集積が進むなど、**コンパクト化も成果**を挙げている。

市街地の拡散と低密度化は、人口減少社会におけるまちづくりの**大きな課題**。

### <その他>

検証委員会においては、**人口減少や中山間地の疲弊を危惧する声**や、**農業の活性化、移住施策の強化**を求める意見が挙げられた。

## 8 合併検証の総括（4）

〈課題として次の4つを指摘〉

- ① 少子・超高齢社会に対応できる持続可能な地域づくり
- ② 急速な人口減少を鈍化させ一定程度の人口規模を維持する取組
- ③ 核家族化、地域とのつながりの希薄化の中における地域コミュニティの維持
- ④ 公共施設の老朽化への対応や類似施設等の見直し

## 8 合併検証の総括（5）

「最後に、今回の検証を通じて、  
合併がすでに市民の日常に深く溶け込んでいる状況が  
明らかになった。  
かつてあった市町村の垣根にこだわらず、  
しかし、地域固有の価値や地域のもつ多様性は、  
これまで以上に大切にしながら、  
行政と地域が一体となって富山市のまちづくりを  
さらに発展させてほしい。」



**TOYAMA CITY**